

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

学校教育目標「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

自分の通う学校、自分の住む地域を愛することで、子どもたちの自己有用感(自尊感情)を高めたいと考え、「学校と地域を愛し」としました。また、知(頭)・徳(心)・体(身体)のバランスのとれた子どもたちを育てたいと考え、「知・徳・体の調和のとれた児童の育成」としました。今後、この学校教育目標を目指して、様々な教育活動を展開してまいります。

めざす児童像

本校のめざす児童像は、「明るい子(徳)、考える子(知)、元気な子(体)」です。学校教育目標にも掲げている「知・徳・体の調和のとれた児童の育成」を子どもたちにわかりやすく表現したものです。併せて、折にふれ「祇園の子(学校愛・地域愛)」とも呼びかけ、学校教育目標の「学校と地域を愛し」を具体化させていきたいと考えています。

学校は、いつも「こどもの日」

校長室の入口に小さな「鯉のぼり」を掲げています。こどもの日に関わらず掲げていますが、「学校は、いつも『こどもの日』だから。」という私の説明に、子どもたちは嬉しそうな笑顔で応えてくれました。「こどもの日」とは、祝日法に「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかる」と定められています。また、「鯉のぼり」は、男児の出世と健康を願った風習だそうですが、男児に限らず女児も含めて、「全校児童が健康で幸福であってほしい」との願いを込めて掲げています。

祇園歴史の旅(その37)「大正時代は産業化と港の整備」

中部地区町内協議会設立25周年記念誌(平成20年発行)、佐世保史談会会員の筒井隆義さんの記念エッセーより抜粋。

『軍港佐世保名も著(しる)く』と戦前の光園小学校の校歌にあるとおり、明治45年(1911)に明治天皇が崩御され大正時代を迎えるまで、概ね海軍一辺倒の時代でした。大正3年、欧州で第1次世界大戦が起こり、日本も日英同盟の趣旨によって参戦、中国の青島や南洋諸島に派兵しました。しかし、主戦場のヨーロッパ各地と異なり、もっぱら消耗が激しい交戦国の補給で大忙しでした。これが幸いして日本の産業は大いに伸び、国内は好況に湧き返りました。

佐世保でも、軍港とは別の民間貿易、貨客専用の岸壁が整備され、小佐世保川河口域の万津町、塩浜町が海運の拠点となりました。港湾荷役を請負う海軍会社は、太平洋戦争下の戦時体制を背景に、神戸の沢山汽船が資本参加して佐世保港湾運輸株式会社として新発足します。こうして明治末年のカンテラに照らされた夜店が名物だった山県、塩浜、万津の各町は、船具船食の会社、食堂、映画館、旅館、近海航路のターミナル設置など、民間湾港としての条件が整って行きました。高砂、相生、浜田の中心街機能はさらに南下を続け、上京、下京、京坪へと伸びてきて今日の四ヶ町商店街の原型が出来上がりました。ガス会社が生まれ、糸山銀行(親和銀行の前身の一つ)の設立、田中丸デパート(玉屋)の開業、湊町に魚市場建設、商工会議所の前身である佐世保商業団設立、米騒動を契機に各地に公設市場が設けられました。

まさに『大正時代は躍進の時代』で、その象徴的活況を見せたのがこの中部地区公民館管内なのです。『大正デモクラシー』という言葉が聞いたことがあると思いますが、民衆が個人意識に目覚め、権利を主張する大衆行動を起こす世相が顕著になったことを指しています。『米騒動』と呼ばれ、全国に広まった大衆の行動をその一例として見てみましょう。これはロシアに共産主義革命が起こり、この広がりを恐れた欧米諸国が臨戦体制をとったのに日本も呼応し、シベリアに派兵します。これを米価の値上がりの好機と読んだ大商人が米の買い占めをはかったのが騒動のきっかけとなりました。大正7年(1918)7月、富山県魚津で主食の米の暴騰に怒った主婦が、米問屋に押しかけて打ち壊しなど過激な行動に走り、これが全国に広まりました。一ヶ月後、佐世保でも海軍共済組合販売所だった田中丸商店に、海軍工廠の職工さんたちが押しかけました。市が困窮家庭に外国米を支給するという緊急対策をしたので、大事に至らず治まりました。

国と地方自治体は、この一件から物価対策と本格的に取組み、生活用品、食糧品などを適正価格『㊦マルコウ』で販売するよう指導、その場所として各地に『公設市場』を開設、低料金で店舗を貸すかわりに、低料金の適正なマルコウ価格で販売させるようにしました。今日まで市場街として賑わっている戸尾市場も、小佐世保川下流を暗渠(あんきょ)にして京町公設市場が設営されたのが始まりです。もう一つ、名切谷の中央にあった太田町公設市場では、階上を利用してアパートが設けられ、職住併設の“ゲタバき住宅”のはしりとなりました。

しかし、大正10年(1921)ワシントン軍縮条約が成立、世の中に不況の影が濃くなってきました。1万2千人を数えた海軍工廠の職工さんも8千人台に減少、大量の解雇者対策が話し合われました。こうした動きの中で大正15年12月25日、大正天皇が崩御され、『昭和』の元号と共に新しい時代の幕が開くのです。

今回は、「昭和の時代は明暗こもごも」と題して、戦前に活躍した人などをご紹介します……。